
北海道浮魚ニュース

平成 16(2004)年度 25 号 (通巻 No.189)

2005 年 2 月 10 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

平成 16 (2004) 年度最終号

今年度も北海道立水産試験場の調査にご協力ありがとうございました。昨年の浮魚各魚種の漁況は下記のような状況でした。

・サンマ

昨年の漁獲量

平成 16 (2004) 年の北海道におけるサンマの漁獲量は、9 万 2 千トンで前年 (10 万 3 千トン) を下回っていました。平成 12 (2000) 年以降 10 万トンを超える水準にありましたが、平成 16 (2004) 年はそれを下回りました。

漁況

棒受網漁船は 7 月下旬から出漁しましたが、出だしは群れが薄く低調なスタートでした。8 月はロシア主張 200 海里内が主漁場となり好調でしたが、道東太平洋海域は群れが薄く低調でした。9 月に入ってもロシア主張 200 海里内の好調が続き、道東太平洋海域の漁況が好転したのは 9 月下旬以降でした。

魚体

8 月上旬は小型魚主体でしたが、8 月中・下旬は大型魚が全体の 8 割以上を占めました。その後もおおむね大型魚が全体の半数以上を占めました。漁期が進むにつれ、徐々に中型魚の割合が増加しました。なお、大型魚が占める割合は各旬とも前年を下回っていました。

・カタクチイワシ

昨年の漁獲量

平成 16 (2004) 年の道東太平洋におけるカタクチイワシの漁獲量は、まき網によって、5 万 4 千トンで前年 (4 万 6 千トン) を上回りました。1998 年以降 (2000 ~ 2001 年は本格的な操業がなく除く) 年々漁獲量は増え、平成 16 (2004) 年は最も多くなっていました。

漁況

9 月上旬から 10 月下旬まで 4 船団で操業が行われました。漁獲量は前年を上回りましたが、投網回数も、前年より 17% 多くなっていました。

魚体

前年同様の 12cm 台が主体でしたが、前年に見られた小型魚が出現しませんでした。

・ スルメイカ

昨年の漁獲量

平成 16 (2004) 年の北海道におけるスルメイカ漁獲量は 5 万 6 千トン で、前年 (9 万 1 千トン) を下回りました。各海域の漁獲量は、日本海が 1 万 6 千トン (前年 2 万 8 千トン)、太平洋が 3 万 1 千トン (前年 5 万 8 千トン)、オホーツク海が 9 千トン (前年 5 千トン) でした。

日本海では、昭和 62 (1987) 年以降増減を繰り返し、3 万トン前後で推移していましたが、平成 16 (2004) 年はその半分程度でした。太平洋～オホーツク海では、平成 2 (1990) 年以降、3～11 万トンと大きく増減を繰り返していますが、2000 年以降は徐々に減少しています。

漁況

日本海では、6 月は若干良かったものの、7 月からはずっと低調に推移し、11 月にピークを迎えました。漁場は沖合域中心に形成されることが多くありました。

太平洋では、早くから漁場が形成されました。しかし、渡島太平洋では、漁期を通して前年よりも低調で、道東も 9 月以降低調に推移しました。オホーツク海では 10 月までは、低調でしたが、11 月に好転しました。

魚体

日本海は、漁期前半は小型が多く、漁期後半は前年並からやや大きくなっていました。しかし、道北では、漁期終盤に例年よりも小型のイカが多くなっていました。

本年度の浮魚ニュースはこれが最終号です。また次年度も調査にご協力よろしくお願ひします。

(文責 : 中央水産試験場資源管理部、TEL:0135-23-8707 , FAX:0135-23-8709)